

令和2年度 各部・学年の年間目標と具体的取り組み

学校教育目標	本校教育は、宮崎県教育基本方針並びに宮崎県人権教育基本方針に基づき、確かな学力を身に付け、心豊かな人間的魅力にあふれた、社会に貢献できる「有為な人材」を育成することを目標とする。	【重点目標】～可能性を伸ばし 生徒に自信と誇りを 一人一人を大切にする指導通过对～ ○当たり前のことを当たり前にできる生徒の育成 →挨拶・身だしなみ・清掃等の指導の徹底、自ら考えて行動する力の育成、規範意識の醸成 ○生徒一人一人を輝かせるための工夫 →学校行事や生徒会活動、部活動の充実・活性化を通した生徒の自主性の育成や自己肯定感の醸成、ボランティア活動の推進、表彰の工夫、人間関係づくりの取組の推進、通級による指導の充実 ○生徒の多様な進路目標の実現 →授業の充実・改善、TKJタイムの内容充実、多様な進路に対応する指導体制の充実 ○高城ブランドの確立を目指した研究の推進と情報発信 →新学習指導要領実施に向けた教育課程の編成、普通科の特色創出、地域等との連携、情報発信の工夫 ○風通しのよい、働きやすい職場環境づくり →職員間のコミュニケーションの促進、相談しやすい環境づくり、組織的対応、働き方改革の取組の推進		
学校の使命	校は「自立」「友情」「前進」に基づき、確かな学力及び規範意識を身に付けさせるとともに、生徒の適性を生かした進路実現により、地域から信頼される学校づくりに取り組む。			
基本方針	【めざす学校像】：生徒一人一人を大切にし、互いが尊敬し合い、支え合い、高め合う中で、確かな学力と豊かな人間性、規範意識を着実に身につけさせ、生徒の能力・適性を生かした進路を実現することにより、生徒・保護者・地域の願いに応え、信頼される魅力ある学校。 【めざす生徒像】：校は「自立」「友情」「前進」の具現化を図り、心身ともに健康で、自己の成長・社会への貢献を目指して学び続ける、心豊かでたくましい生徒。 【めざす職員像】：教育の専門家として、授業力や生徒指導力等の向上にむけて学び続け、生徒・保護者・地域の願いに応えるために「あつい」（熱・厚・篤）指導を行う職員			
具体的実践	達 成 手 段	I学期	2学期	総括
1 学力の向上	1 学習力(学びに向かう姿勢)の向上 (TKJタイムの充実) 2 家庭学習量アップと基礎基本事項の定着 3 アクティブラーニングによる授業展開の工夫 4 少人数指導によるきめ細やかな指導の改善 5 資格取得指導の充実 6 読書活動の工夫	2.2	2.7	3.0
2 自尊感情の醸成・規範意識の確立	1 マナー指導・清掃指導徹底と挨拶の励行 2 学校行事の精選充実 3 校外の各種大会への参加促進 4 ボランティア活動や地域貢献活動の推進 5 人間関係づくりの取組の推進 6 表彰制度の工夫	2.4	2.7	2.8
3 キャリア教育の推進	1 3ヶ年の系統的な指導の構築 2 企業や上級学校との連携による意識啓発 3 多様な進路希望への早期対応と目標達成 4 保護者や卒業生の活用 5 インターンシップの改善充実 6 コミュニケーション能力の育成 (自分の考えを自分の言葉で表現できる)	2.4	2.7	2.8
4 信頼される学校づくり	1 家庭、地域、同窓会との連携強化 2 地域との交流促進 3 戦略的な情報発信 (HP, 情報ファイル、地域への広報等) 4 PTA活動の充実 5 学校関係者評価の適切なフィードバック 6 教職員の矜持によるコンプライアンス意識の保持	2.4	2.9	3.3

分掌 学年	重点目標 との関連	評価項目	評価指標	方策	1学期 評価 4~1	2学期 評価 4~1	総括	成果と課題	
			数値目標	手立て					
教務部	1	1 基礎・基本の徹底と学習力の向上	■授業研究・研修の実施による指導力向上と「授業アンケート」の授業に対する各質問項目の結果向上 ■学習量の増加 ■MEテストの平均点80点以上 ■学期末における欠点保持者の削減 ■学年末における欠点による原級留置生徒の削減	○年2回の研究授業を行い、教科指導力の向上を図る。 ○年2回の授業アンケートを行い、授業改善のための指標とする。 ○学習量調査を実施し、学習量増加のための指標とする。 ○年間2回のMEテストを実施し、基礎・基本の定着を図る。 ○各考査前に、成績不振者に対し学習特別指導を個別に行い、担任と教科担任の連携を推進する。 ○各学期末に、成績不振者に対し講話、面談を行い、学習力を向上させる。 ○10月に教育課程説明会を実施し、生徒の進路実現のための科目選択を推進する。 ○通級指導の計画・実施をサポートする。 ○教科代表者会を通して、生徒の学習量増加を推進する。	2	3	3	○研究授業を行い、授業改善の研修とした。 ○学習量調査の方法を改善し、平常時の学習時間が30.7分→77.3分、テスト前が78.0分→175.1分と大幅に增加了。 ○学期末の欠点保持者も大幅に削減できた。しかし、2学期の学習時間が減少した。 ○MEテストを実施し、全体の平均点が67.2点であった。 ○学習特別指導により、基礎学力の向上を図った。欠点保持者は昨年度比で大きく減少した。（2学期末欠点者数…R01：35名→R02：18名） ○「学習支援ポータルサイト」を開設し、「動画編集」について職員研修を実施し、休校時の学習支援と授業力向上のための修養とした。 ○予約奨学金の申込について、各自自宅で入力することとした。大きな混乱もなく申請できたので、次年度以降も同様の方法で行いたい。 ●G-suite for Education活用の推進。 ●新学習指導要領に備えた、観点別評価の研究と新しい学習指導案の様式の検討。	○研究授業を行い、授業改善の研修とした。 ○学習量調査の方法を改善し、平常時の学習時間が30.7分→77.3分、テスト前が78.0分→175.1分と大幅に增加了。 ○学期末の欠点保持者も大幅に削減できた。しかし、2学期の学習時間が減少した。 ○MEテストを実施し、全体の平均点が67.2点であった。 ○学習特別指導により、基礎学力の向上を図った。欠点保持者は昨年度比で大きく減少した。（2学期末欠点者数…R01：35名→R02：18名） ○「学習支援ポータルサイト」を開設し、「動画編集」について職員研修を実施し、休校時の学習支援と授業力向上のための修養とした。 ○予約奨学金の申込について、各自自宅で入力することとした。大きな混乱もなく申請できたので、次年度以降も同様の方法で行いたい。 ●G-suite for Education活用の推進。 ●新学習指導要領に備えた、観点別評価の研究と新しい学習指導案の様式の検討。
	2	2 行事の精選・充実と業務の効率化	■各種行事と業務の見直し ■「ミライム」の活用推進 ■各科目の授業時数の確保 ■計画的な行事の実施	○スクラップ&ビルト研修会を行い、各部の既存の業務や行事について改善を図る。 ○「みんなが使えるミライム」を目指し、ミライムに関する情報発信を行い、業務の効率化を図る。 ○各種行事の調整を各部署と連携して計画的に行う。	2	3	4	○新型コロナ感染症対策に伴う行事の調整を行った。 ○「ミライム」活用の定着を図り、業務の効率化が図れた。 ○新型コロナ感染症に伴う行事の変更が多かったが、職員全体に周知を図りながら実施できた。 ○業務の棚卸しにより、業務の全体像が把握でき、業務の精選の一つとして次年度の授業アンケートを年1回に減らした。 ●更なる行事・業務の精選。	○新型コロナ感染症対策に伴う行事の調整を行った。 ○「ミライム」活用の定着を図り、業務の効率化が図れた。 ○新型コロナ感染症に伴う行事の変更が多かったが、職員全体に周知を図りながら実施できた。 ○業務の棚卸しにより、業務の全体像が把握でき、業務の精選の一つとして次年度の授業アンケートを年1回に減らした。 ●更なる行事・業務の精選。
	4	3 特色ある学校づくりと教育内容の研究、広報活動の推進	■少人数指導の実践 ■一日体験入学満足度の向上 ■高校入試志願倍率の向上 ■連絡メール登録率95%以上 ■連絡メールの活用促進 ■魅力あるホームページの制作推進と随時更新	○各種場面（授業・TKJタイム・特別学習指導）での個別指導を推進する。 ○中学校教諭の中高連絡会を実施し、本校の教育内容を紹介する。 ○各中学校で行われる高校説明会に参加し本校のアピールを行う。 ○一日体験入学を実施し、本校のアピールを行う。 ○魅力ある学校案内パンフレットの作成を目指す。 ○保護者の連絡メール登録を推進するとともに、各部・学年に担当を配置し、職員の連絡メール活用を推進する。 ○ホームページの内容について検討・見直しを図る。 ○情報発信の手段について研究を推進する。 ○教科代表者会を通して教育課程の改善を図る。	2	3	3	○いろいろな場面で少人数指導、個別指導を推進できた。 ○一日体験入学を10月に実施し、過去最高の評価を得（参加生徒のアンケートより）、受検生へのアピールができた。 ○生徒会と協力し、PR動画を作成し、一日体験入学、高校説明会で活用した。中学生にも「わかりやすかった。」「雰囲気が伝わった。」などの意見が多く、本校のアピールにつながった。 ○新型コロナ感染症対策として、連絡メールの登録を推進した結果、登録率が99%を達成した。メールの活用も定着してきた。 ○ホームページの内容を大幅にリニューアルし、更新を継続して行い情報発信に努めた。 ●志願倍率の向上に向けた継続的PRの促進と情報発信の手段についての研究。 ●令和4年度新教育課程の編成。 ●学校評議会アンケートウェブ入力の検討。	○いろいろな場面で少人数指導、個別指導を推進できた。 ○一日体験入学を10月に実施し、過去最高の評価を得（参加生徒のアンケートより）、受検生へのアピールができた。 ○生徒会と協力し、PR動画を作成し、一日体験入学、高校説明会で活用した。中学生にも「わかりやすかった。」「雰囲気が伝わった。」などの意見が多く、本校のアピールにつながった。 ○新型コロナ感染症対策として、連絡メールの登録を推進した結果、登録率が99%を達成した。メールの活用も定着してきた。 ○ホームページの内容を大幅にリニューアルし、更新を継続して行い情報発信に努めた。 ●志願倍率の向上に向けた継続的PRの促進と情報発信の手段についての研究。 ●令和4年度新教育課程の編成。 ●学校評議会アンケートウェブ入力の検討。
生徒指導部	23	1 基本的生活習慣の確立	■マナー・身だしなみの指導 ■あいさつ・言葉づかいの指導 ■交通安全の指導	○学年団と連携し、年11回の定期的なマナー指導を実施する。 ○生徒会を中心とした「あいさつ運動」を奨励する。 ○自転車点検及び交通安全教室を実施する。 ○新学期始めに立番指導を実施する。 ○自転車の二重ロックの徹底を図る。	2	2.4	2.3	○回数を減らしたが定期的にマナー指導を行えた。 ○女子のスラックスが導入された。 ○生徒の挨拶がよくなっている。 ○各種委員会の活動は計画通りに実施できた。 ○交通委員による自転車点検や二重ロック点検を予定通り実施できた。また、10月の自転車施錠率が昨年度50%から今年度88%とアップした。 ○新学期初めと期末考査時に職員による立ち番指導を行った。 ●マナー指導が形骸化しており日常の服装容儀面が改善されていない。また、特定の生徒が毎回再検査を受けている。今後、生徒の意識を高めるためにマナー講習会等を企画する必要。また、現行のルールを生徒に守らせる粘り強い継続的な指導も必要。 ●自転車通生の交通マナーが悪いと外部から情報提供があった。 ●コロナ禍で交通安全教室が実施できなかった。	○回数を減らしたが定期的にマナー指導を行えた。 ○女子のスラックスが導入された。 ○生徒の挨拶がよくなっている。 ○各種委員会の活動は計画通りに実施できた。 ○交通委員による自転車点検や二重ロック点検を予定通り実施できた。また、10月の自転車施錠率が昨年度50%から今年度88%とアップした。 ○新学期初めと期末考査時に職員による立ち番指導を行った。 ●マナー指導が形骸化しており日常の服装容儀面が改善されていない。また、特定の生徒が毎回再検査を受けている。今後、生徒の意識を高めるためにマナー講習会等を企画する必要。また、現行のルールを生徒に守らせる粘り強い継続的な指導も必要。 ●自転車通生の交通マナーが悪いと外部から情報提供があった。 ●コロナ禍で交通安全教室が実施できなかった。
	23	2 自主性の育成	■学校行事や生徒会活動の充実 ■部活動やボランティア活動の充実と活性化 ■規範意識の醸成と豊かな人間関係の構築	○学校行事等における生徒会、実行委員会や各種委員会の活動を積極的に支援する。 ○生徒総会や銀杏祭等の学校行事を充実させ、様々な行事を通して生徒が成長し、生徒同士が豊かな人間関係を築けるように働きかける。 ○生徒会役員と各種委員会の委員長の話し合いを定期的に行う。 ○全員部活動加入を奨励し、部活動加入率70%を目指す。 ○ボランティア活動や地域貢献活動の案内を積極的に行う。 ○情報モラル教育を強化し、SNA等のトラブル防止に努める。 ○ピア・サポート活動を通じて、豊かな人間関係づくりの取り組みを図る。 ○個人面談やアンケート等によりいじめの早期発見・早期解決に努める。 ○人権啓蒙教育や主権者教育を計画的に実施する。	2.3	2.8	2.8	○銀杏祭は期日・場所の変更があり、調整や準備が大変であったが、MJホールを使用しての新しい形の銀杏祭を成功させることができた。 ○生徒会を中心に学校行事に変化が見られた。また、リーダー研修では生徒会役員と各種委員長を対象にSWPBSについて話し合う事が出来た。 ○第1回スポーツディの際は交通委員と連携して、生徒が安全に移動できた。 ○4月当初に予定していた情報モラル教室を7月に実施することができた。 ○各学期1回ピア・サポート活動をLHRに組み込んだ。また、いじめに関するアンケートを年3回実施するなど必要に応じた対応ができた。 ○個人面談やアンケート等を実施した。また、いじめの認知について職員研修を実施した。 ●コロナ禍で芸術鑑賞が次年度に延期された。 ●各種委員会活動をもっと充実させるための支援体作りが必要 ●生徒会活動をより充実させる枠組み作りが必要。 ●年度当初の部活動加入率が約54%（各年度は68%）であった。年々部活動の加入率が低下している。また、途中退部者も何名か出ている。加入率の増加と魅力ある部活動を作り上げることが課題である。 ●コロナ禍の影響でボランティア活動ができなかった。 ●スマホの校内持ち込みで指導を受ける生徒が多かった。 ●校則についてその妥当性が指摘されているが、今後生徒を巻き込んでどう話し合う機会を設定するかが課題である。	○銀杏祭は期日・場所の変更があり、調整や準備が大変であったが、MJホールを使用しての新しい形の銀杏祭を成功させることができた。 ○生徒会を中心に学校行事に変化が見られた。また、リーダー研修では生徒会役員と各種委員長を対象にSWPBSについて話し合う事が出来た。 ○第1回スポーツディの際は交通委員と連携して、生徒が安全に移動できた。 ○4月当初に予定していた情報モラル教室を7月に実施することができた。 ○各学期1回ピア・サポート活動をLHRに組み込んだ。また、いじめに関するアンケートを年3回実施するなど必要に応じた対応ができた。 ○個人面談やアンケート等を実施した。また、いじめの認知について職員研修を実施した。 ●コロナ禍で芸術鑑賞が次年度に延期された。 ●各種委員会活動をもっと充実させるための支援体作りが必要 ●生徒会活動をより充実させる枠組み作りが必要。 ●年度当初の部活動加入率が約54%（各年度は68%）であった。年々部活動の加入率が低下している。また、途中退部者も何名か出ている。加入率の増加と魅力ある部活動を作り上げることが課題である。 ●コロナ禍の影響でボランティア活動ができなかった。 ●スマホの校内持ち込みで指導を受ける生徒が多かった。 ●校則についてその妥当性が指摘されているが、今後生徒を巻き込んでどう話し合う機会を設定するかが課題である。

分掌 学年	重点目標 との関連	評価項目	評価指標	方策	1学期 評価 4~1	2学期 評価 4~1	総括	成果と課題
			数値目標	手立て				
進路指導部	2 3	1 3年間を見通した進路指導計画の樹立と推進	■総合的な学習の時間、総合的な探究の時間を有効に活用し、職業観・勤労観・学ぶ意欲を育む。 ■企業郷土探究、インターンシップを通して、実社会の厳しさや素晴らしさを認識させる。 ■企業郷土探究、インターンシップの満足度80%以上。	○総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の年間計画を立て、それに基づいて指導を実施する。 ○学年ごとに進路担当者が教材を作成し、それを活用して指導をする。 ○企業郷土探究、インターンシップの事前の調べ学習に十分時間をかけ、実施日当日までの準備をしっかりと整える。 ○企業郷土探究、インターンシップの事後のまとめにも時間をかけ、クラス、学年での発表会を通してプレゼンテーション能力を育成する。	2	2	2	○総合的な探究の時間は各学年ごとの計画に基づき進めることができた。 ●今年度は、コロナウィルスの関係で、企業郷土探究と、インターンシップが実施できなかった。来年度以降も、コロナウィルスに注意しながらできる行事と、できない行事を仕分けながら、新しい形での計画をしなければならない。
	1	2 進路目標達成のための学力養成	■全学年、全学科で行われるTKJタイムや、3年生の進路決定時の放課後の指導を通して、各進路目標を達成する学力を養成する。 ■各種検定、資格取得に挑戦させて、実践的な知識や技能を習得させる。 ■高校生のための学びの基礎診断（ペネッセの実力診断テスト）の各回の結果が前回より向上した生徒75%以上。	○計画的なTKJタイムの実施。教養の時間の活用を通じ、基礎学力の定着を図る。 ○3学年時における進路目標別の集会や、必要な学習の研修会を開き、実践で活用できる能力を育成する。 ○3学年時の小論文、面接指導を各職員に割り振り、個別指導の充実を図る。 ○各教科が主催する資格検定をこまめに紹介し、積極的に挑戦させる。 ○高校生のための学びの基礎診断（ペネッセの実力診断テスト）を活用し、PDCAサイクルを構築する。	2	2	3	○3年生の受験に向けてのTKJタイムの活用はできた。従来放課後に行ってきた受験指導もTKJタイムの中で進めることができた。 ○各先生方へ、3年生の面接・小論文指導の割り振りを行った。ほぼ9割近くの3年生が進路決定を達成できている。 ○多くの生徒が資格・検定に挑戦した。 ●TKJタイムのあり方に課題が残った。アンケートで、TKJタイム廃止の意見が多く、来年度のあり方を検討しないといけない。
	3	3 進路情報収集と、情報の効果的な利活用	■各進路の行事を通し、将来の目標や夢の発見に努めさせ、生徒自身の進路意識を高める。 ■目標や夢の具体的な発見 1年生50%以上、2年生70%、3年生90%以上。	○年間5回の進路ガイダンスを実施する。 ○「卒業生の話を聞く会」、「親が語るしごと・よのなか講座」「3年生の話を聞く会」「進路講演会」を通し、色々な立場の方から講話を頂くことで生徒自身の進路意識を高める。	2	3	3	○コロナウィルスの心配がある中でも、防御策を取り、9月の「親が語るしごと・よのなか講座」、9月の「第3回進路ガイダンス」、12月の「第4回進路ガイダンス」を実施できた。参加している生徒は非常に真面目に取り組む姿が見られた。 ●進路ガイダンスが土曜日開催ということもあり、欠席も目立った。来年度は平日開催も視野に入れ計画を練り直したい。 ●「卒業生の話を聞く会」は今年度実施できなかった。来年度は形を変えてでもできることをしたい。
	1 2 3 4	4 進路目標達成100%	■進路目標達成のための指導を通して、社会的・職業的自立がなされるように取り組む。 ■進路指導を通して耐性と意欲、協調性を持った生徒を育成する。 ■進学から就職まで個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ■進路決定率100%。 ■第一志望合格率80%以上。	○上記の全ての全体指導、個別指導を充実させることで進路目標を達成させる。	3	3	3	○3年生94名中90名の進路が決定している。進路目標達成率も95.7%の数字が残せた。まだ、今後も合格発表がある生徒もあり、最終的に全員の進路決定を目指したい。 ○就職選考については、コロナウィルスの影響で、時期が1ヶ月ほど後ろにずれたにもかかわらず早期に決定した生徒が多かった。年を越した生徒も、最後は、進路ガイダンス等お世話になっている企業から内定をいただくことができた。企業と学校との日常頃のつながりが大事であることを痛感した。 ○私立大学受験者の中には、80万免除、50万免除、25万免除等、多くの生徒が特待生として合格した。 ●受験指導の中で、一度挑戦し、不合格になった後、立ち直るのに時間がかかる生徒がいた。また、合格者の中にも、合格後の気の抜け方が激しい生徒も見られた。 ●国公立大学への進学者を出せなかったのは痛恨の極みであった。
図書涉外部	1	読書意欲の喚起及び読書量の増加	■「朝の読書」の内容の充実 ■読書週間の設定 ■継続的な広報活動の実施	○監督指導を充実させ、全校的な読書体制を作る ○年2回（1・2学期）設定し、内容の充実に努める。 ○定期的に「図書だより」を発行し、新刊等の情報を提供する。	2	3	3	○「図書だより」による新刊案内を定位的に行うことができた。 ○年1回であったが、読書週間を実施し、アンケートの結果も好意的であった。 ○パーティションや消毒液の設置により感染対策を行いながら、図書室利用を推進できた。 ●「朝の読書」にしっかり取り組めるよう、引き続き先生方の根気強い指導をお願いしたい。
	1	適正な図書選定と活用の推進	■公正な図書選定 ■読書利用の推進 ■図書室の整備	○各教科に購入希望図書のアンケートを取り、部で検討・調整する。 ○本校図書室としてふさわしい良書を選定する。 ○スクールプロシステムを元に図書委員が蔵書点検を行う。	2	3	3	○生徒・職員の希望を基に購入図書の選定を行うことができた。 ○図書委員は、清掃時間を利用し書架整備に努めた。 ●感染症拡大防止を図りながらの図書委員活動の活性化。 ●授業での図書室利用の促進。
	1 4	視聴覚機器・機材の整備と、活用の推進	■授業で活用しやすい環境の整備	○視聴覚利用規程の遵守を徹底する。	2	3	3	○ソフトウェアの利用は若干あった。 ○引き続き、授業以外での視聴覚室利用はミライムの活用をお願いしたい。 ●鍵の管理、使用後の施錠、机椅子の丁寧な使用をお願いしたい。
PTA・家庭・地域・同窓会	2 4	PTA各種行事の内容充実と精選	■PTA総会の充実（出席率90%以上）。 ■朝の交通整理活動、うどん作り、PTA研修会の実施。 ■PTA新聞の一層の充実。	○アンケートにより改善を図る。 ○早めの案内を心懸けるとともに役員による呼びかけにより参加を促す。 ○保護者・職員の意見を元にPTA新聞の記事の充実を図る。	2	3	2	○「うどん作り」はコロナ禍のため、役員の意見を基にスポーツデイにパンと飲み物を配布した。例年、役員が決定する一文字は、かまぼこに替えて、メッセージとともにシールに印字してパンの袋に貼付した。衛生面、当日の分担等、事前の検討の余地があった。 ○PTA新聞は、紙面作りに保護者の協力をいただき2回目の発行ができそうである。記事に協力を頂いた先生方にも感謝したい。 ○PTA総会は配付資料の承認という形態で実施した。 ○朝の交通整理活動は年2回保護者と職員で協力して実施できた。 (PTAにより行事の様子はDVDに記録された。)
	4	家庭・地域・同窓会との連携	■学校行事の連絡の徹底	○早めの案内を心懸ける。 ○保護者への連絡はメール配信も活用する。	2	3	4	○案内文書は早めに発出ができる。併せてメールでも配信して周知を図った。 ●メール配信の活用による保護者役員への文書伝達の工夫。
	4	親和会行事の充実	■親和会行事の検討	○学校行事・予算と絡めながら実施する。	2	3	4	○親和会支出は規約に応じて予算と絡めながら執行できている。歓迎会、忘年会は実施できなかったので、費用を返還した。 ○親和会内規を一部見直し、年度内に職員に提示する予定である。

分掌 学年	重点目標 との関連	評価項目	評価指標	方策	1学期 評価 4~1	2学期 評価 4~1	総括	成果と課題
			数値目標	手立て				
環境 保健 部	1, 2	日常の清掃活動の徹底を図る	<ul style="list-style-type: none"> ■全員で積極的に清掃に取り組むよう働きかける。 ■学習環境を美しくする意識を高揚させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○美化委員会による啓発と広報活動に努める。 ○日々の清掃活動においてきめ細やかな指導、呼びかけをする。 ○清掃キャンペーン実施 	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○後期清掃区分の美化勤労者は、多くの生徒が表彰され、意識の向上が図られた。 ○清掃キャンペーンを通して清掃への意欲が向上した。(SWPBS) ●その反面、清掃への取り組みが悪い生徒もいるため、呼びかけと指導が必要である。 ●自分で使った汗ふきシートや鼻かみティッシュを、教室のゴミとして持て来る時があった。
	2	環境の整備が行き届いた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ■年間を通して正門花壇、プランタの花を整備、維持する。 ■私物ごみの持ち帰り、分別の徹底させる。 ■校内掲示物を整理・管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○美化委員会の活動として、校内の緑化推進に努める。 ○ごみ処理のルールを明確にし、職員・生徒に浸透させる。 ○美化委員会で掲示物のある箇所をパトロールする。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○美化委員を中心に、正門前、その周辺の花壇・緑化推進活動が大変よくできた。 ○不衛生箇所や危険な箇所の修理、設置がスピード感をもって対応していただいた。 ○銀杏の強剪定が行えた。(臭いや、駐車への悪影響改善として) ●私物ゴミや持ち込みは、やや減ってきてているが、ペットボトルが減らない。全職員で根気強い指導を継続する。 ●自動販売機の空き缶入れに、持ち込みのゴミが捨てられている。
事務 部	2	事故予防や危機回避の意識を高めさせる	<ul style="list-style-type: none"> ■防災についての知識を深め、危機管理意識を高めさせる。 ■クラスでの健康観察を徹底する。 ■体育的行事における事故防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難経路の確認、防災訓練や防災教育の実施する。 ○保健委員会の活動(手洗い場の衛生管理、感染症対策)を充実させる。 ○体育大会やスポーツデイにおける救護・給水計画を立てる。 	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍での感染防止対策に追われる1年であったが、チームワーク良く万全に対応できた。 <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがい、マスク着用の徹底 ・毎日の健康観察票の検温 ・教室の換気と空調 ・保健委員、職員による毎日放課後の消毒活動 ・食事の取り方(昼休み)のルール ○体育大会やスポーツデイでの体調を悪くする数は、中止または、縮小により大幅に減った。 ●生徒の、日常のけがや事故に対する注意力や意識を上げることが課題である。
	4	心身の健康の保持増進と実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ■年間3回以上の健康教室の実施する。 ■心の健康と精神的自立を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○熱中症対策、性教育、薬物乱用防止教室などの健康教室の実施する。 ○教育相談係や医療機関との連携を図る。 	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 各検診、健康教室は、コロナウイルス感染防止対策をしっかり行い、大変良好であった。 また、密を避けるため、新しい整列の仕方(高城スタンダード)を考え、実施できた。 ○人間関係に悩む生徒の相談、支援など、保健室(養護教諭)の活躍・役割が大変すばらしい。 ●安易に体調(心・体)を崩す生徒が多く、「保健室に行けばいい」という弱さがある。健康(心・体)に過ごす意義と責任を涵養したい。
生活 文化 科	1, 4	教育環境の整備	■施設の整備と教材教具の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○予算執行状況の適宜把握と年間執行予定の策定 ○必要とする物品の把握と在庫確認 ○施設点検の実施 	2	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ○予算執行状況を把握し、年間執行計画を立てた上で必要な追加予算を要求し、各種修繕や必要物品の購入、不用物品の処分・売却を行うことができた。 ○家庭科で必要となる備品(ミシン)について、通常の産振予算と別に複数回の令達申請を行い、購入を進めることができた。 ○校内で必要となる消耗品の聞き取りを行い、廃校となる都農高校の不用物品の所管換えを受け予算及び物品の有効活用を図ることができた。
	4	校納金の年度内納入	■校納金の年度内完納を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○文書や電話での連絡、家庭訪問を行い、納入促進を図る ○連絡メールの活用 ○担任や学年団との連携を図る 	2	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 校納金12月末完納 ○2学年修学旅行未実施のため関連の未納がなくなり、全員納入された。 今後も家計の厳しい状況は予想されるため、滞納にならないよう早めの情報共有、効果的な督促を検討していかたい。
	4	正確な事務処理	<ul style="list-style-type: none"> ■法規に精通し、正確な事務処理に努める。 ■各種手続き等について的確な処理に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員への各種手続き・手当等への共通理解を図る ○法規・手続きの改正等については部内で研修を行い、周知を図る 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○手当等の案内・隨時注意喚起等を行い、正確に支給できた。 今後も隨時情報提供・情報共有を徹底し、正確な事務処理を行いたい。そのためのスキルアップに努めていきたい。
生活 文化 科	1	専門的な知識と技術の習得、日本の生活文化の伝承と創造に寄与するスペシャリストの育成	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒の実態に応じて授業形態や方法を工夫する ■検定合格を目指した指導法の充実 ■地域の人材活用、上級学校との連携による専門性の高い授業の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ○T・T及び選択・分割履修など個に応じた指導の工夫 ○各種検定指導の充実。 ○日本文化の伝承と創造と専門性の高い授業の実践 	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○指導方法については、コロナ禍にあって調理実習などなかなか実施できなかったり、実施に際しても色々と工夫が必要であった。例年実施している課題研究発表会やお茶会などは、何度も計画を変更したもの実施することができず残念であったが、生徒たちの頑張りを形に残すために形態を変えて実施した。また家庭科技術検定取得においては、四冠王1名(県内では本校のみ)、3冠王3名という実績を残すことができた。 ○度々の休業で検定日程の見直しが必要になったり、指導方法にも工夫が必要であったが、その都度教科内で相談しながら対応することができた。検定の在り方や指導方法など見直す良い機会となった。
	2, 3	家庭生活で応用できる実践力と生活関連産業に従事するための能力育成	<ul style="list-style-type: none"> ■地元企業との連携授業の展開 ■プロに学ぶ職業観、勤労観の育成 ■教室整備とユニバーサルデザインを意識した板書の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域産業と連携した専門的な学習 ○外部講師講習会による職業観・勤労観の育成 ○学習環境を整備と学習習慣の定着化 	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は例年のように企業や行政機関などの出前講座が実施できず、計画をしていても直前で変更や形態を変えるなどの必要があった。その中でちびっ子運動会や生産商の発表会など今後も継続していきたい。 ●学習習慣の定着にはまだ至らず、十分ではなかった。各学年とも対策を考えたい。
	4	学校家庭クラブ活動を通じてコミュニケーション能力と地域に貢献する人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ■地域に根ざし生徒が主体的に活動する家庭クラブ活動を目指す ■広報活動に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校家庭クラブ活動を通して地域社会に貢献できる実践的な態度の育成 ○学科のPR 	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○色々な行事を中止する中、幼稚園、小学校との連携した活動を行うことができてよかった。当面は状況をみながら計画していくことが大切であると感じた。 ○今年度はHPを定期的に更新することができた。また報道機関による取材もあり、学科PRを行うことができた。

分掌 学年	重点目標 との関連	評価項目	評価指標	方策	1学期 評価 4~1	2学期 評価 4~1	総括	成果と課題
			数値目標	手立て				
第1学年	1	学習習慣の確立と基礎基本の定着を図ると共に、心の豊かさを育む	■欠点保有者 0.0 % ■評定平均 A段階 40 % B段階 50 %	○授業開始と終了における挨拶の励行 ○授業中の学ぶ姿勢(態度・言葉遣い・身だしなみ) ○課題等の提出期限を守らせる ○家庭学習の定着	3	2	3	□欠点保有者(2人) □評定平均 A段階33%(33%/38%) B段階40%(38%/47%) [1年次(2学期/1学期)] ○コロナの影響により落ち着いて学習に取り組むことが厳しかった。その中で休業中の課題や諸テストに向け、計画的に学習できた生徒も見られた。 ●休業により演習時間の確保が難しく、深い学びへつながらないことがあった。 ●学習に対する二極化が顕著に見られ、今後の学習支援体制の見直しが必要である。
	2	自尊感情の醸成と規範意識の確立	■部活動加入率 80 %以上 ■ボランティア参加回数3(回/年)以上 ■遅刻・欠席者数(1日平均) 遅刻者 2(人/日) 2.2人以内 欠席者 3(人/週) 0.6人以内	○学級活動や学校行事、部活動に積極的に参加できる環境を整える ○校内外ボランティア活動の推進 ○清掃指導の徹底 ○時間を守らせる	3	2	3	□遅刻者: 0.58(人/日) 欠席者: 2.28(人/日) ○概ね出席関係は目標を達成できた。(進路変更希望による欠席等は除く) ○限られた学校行事に積極的に参加する姿が見られた。またLHRでは、そのときのテーマに対してグループ協議したり、発表したするなど、各々が活躍する場面が見られた。 ●部活動やボランティア活動への参加が厳しかった。 ●スマホ持込に関して同じ生徒が繰り返し指導されたり、他人とのコミュニケーショントラブルでくり返し注意されたり、同じミスをくり返す生徒への指導が課題である。
	3	自己理解と早期の進路目標決定を目指す	■進路関係行事の満足度 80 %以上 ■基礎力診断テスト(GTZ) Cゾーン以上 20%以上 D2-Zゾーン 60%以上 ■検定取得率	○多様な進路目標に関する情報提供 ○TKJタイムの弾力的活用 ○校外模試、各種検定に向けた対策 ○2者面談、3者面談の充実	3	3	3	□進路関係行事 コロナの影響により計画通り実施できなかった。 □基礎力診断テスト Cゾーン以上 国: 31.8→40.0→34.1 数: 33.0→31.4→32.9 英: 10.2→12.8→14.5 総: 17.0→23.7→14.6 Dゾーン以上 国: 83.0→79.9→78.4 数: 79.5→67.4→61.4 英: 64.8→57.0→53.4 総: 42.0→41.9→40.9 ○総探の時間を計画通り実施できなかった分、これまでの経験を生かした教材を提供してもらい、必要な進路情報などを提供できた。 ○卒業後の進路に関して意識する(考えるようになった)生徒が増えた。 ●進学希望生徒への受験指導
第2学年	2	生徒の自主性の育成・自己肯定感の醸成	■学校活動や学校行事への積極的な参加 ■公共心の育成	○予鈴の2分前行動を身につけさせる。(継続指導) ○授業開始と終礼時に分離礼を取り入れ、挨拶やお辞儀の仕方を身につけさせる。(継続指導) ○学校行事、諸活動を通して、生徒一人一人が活動できる場を提供し、達成感が味わえるような環境を整える。 ○修学旅行を通して、公共交通機関や公共施設利用のモラルを身につけさせる。 ○学年の共通認識のもと、教育相談担当や特別支援コーディネーター、通級担当者との連携を図り、ライフスキルを支援する。	2	2.5	2.8	○学校の施設の破損が少なく、外部からの苦情も少なかった。 ●遅刻者が多く、固定化している。生徒の意識を変えるための取り組みが課題である。 ●限られた環境の中でも1つ1つの行事を大切に体験させていきたい ●修学旅行中止により、社会性、協調性、モラルを身につける機会がなくなった。校外学習を行う機会があれば、その中で身につけさせたい。
	1	学力向上	■家庭学習量の定着 ■TKJの内容充実	○担任と教科担任が連携し、個に応じた指導を粘り強く行う。 ○TKJの教養において、一般常識問題に対応できる基礎学力を身につけさせるために小テスト取り入れ、学習の定着を図る。 ○TKJを活用し、上位層や大学進学希望者の学力の向上を図る。	2	2	2.5	○学年会を通じて、生徒の情報共有を密にした。 ●TKJの活用ができなかった。ゼミ受講生以外の生徒への手立てを考えていく必要がある。
	3	キャリア教育の推進	■インターンシップの生徒充実度 80 %以上 ■具体的な進路目標の設定	○ピア・サポート活動を通して、自己的能力や適性、他者を思いやる心を育てる。 ○インターンシップを通して職業観、勤労観を身につけさせる。 ○インターンシップ体験後、事後のまとめとして、学年で発表会を実施し、プレゼンテーション能力を育成する。 ○オープンキャンパスや進路説明会などに自主的に参加し、自ら情報を獲得し、進路の意識を高める。 ○総合的な探究の時間や進路ガイダンスを通して、3学期には進路の指向性を明確にさせ、3年生の新学期に進路実現に向けて行動できるようにする	2	2.2	2.8	○校外模試の受験を進んで希望する生徒がいた。放課後の対策講座にも参加し、意欲的に取り組んでいた。 ○面接ノート作成の準備として資料作成を行い、生徒へ意識づけを行うことができた。 ○検定の案内をした際、興味を持ったり、前向きに考えたりする生徒が増え、進路を意識した会話がよいく多くの行われるようになった。 ●より進路目標に近づけられるよう、各教科で支援できる体作りが必要である。 ●テスト前だけでなく普段からの家庭学習の定着を図りたい。 ●インターンシップの中止により働くことの楽しさ、厳しさを体感できなかった。学校全体で代替できる内容の研究が必要と思われる。 ●校外の進路ガイダンスに参加し、外部からの刺激と校内のガイダンスを効果的に活用したい。 ●進路資料室の利用を促し、進路に対する意識を向上させたい。

	I	学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭学習量の昨年比増加率 ■上級資格・検定の取得 ■作文・小論文指導への取組度 	<p>○学びに向かう姿勢を整え、自ら学ぶ意欲を向上させ、TKJタイムの充実を図る。</p> <p>○希望進路に応じた少人数指導による、粘り強いきめ細かな指導への改善を図る。</p>	2.3	2.7	3	<p>○TKJタイムを自習の時間として、各自で取り組む内容を考えながら活動できた。</p> <p>○テスト前の自宅学習時間は増加したのではないか。（評定の重みや欠点回避を考えるようになった）</p> <p>○上級検定にも例年通り挑戦したが、合格率の低いものあり、今後の検討が必要だと思われる。</p> <p>○卒業保留者なし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小論文指導について、特定の先生方に頼らざるをえなかった。 ●3年次になってからのTKJに多く詰め込みすぎた。学力向上は、3年間のカリキュラムや夕課外、夏課外の実施を含めて考えて欲しい。また志望校の決定のためにTKJを使うのも趣旨と異なるのではないか。総学の3年間の年計を見直して、系統立てた指導方法を確立すべき。 ●成績の評定と実際の学力が相応していないことが、生徒の過信に繋がっているのではないか。校外模試を活用した指導が必要。 ●国公立へ勝負させるために、早いに越したことなはい。付け焼刃にさせないために。 ●2月に実施した、進路決定者の補講の在り方の見直しが必要。むしろ、決定させるための学習を充実させられないか。
第3学年	2	自尊感情の醸成・規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ■学校行事・生徒会活動の満足度 ■部活動・校外活動やボランティア活動への自発的な参加数 ■美化勤労者表彰者数 	<p>○体育大会をはじめ、最高学年としての自覚と誇りを持ってリーダーシップを発揮させる。</p> <p>○清掃活動を通して学ぶ環境を整え、目の前の物を磨き、心を磨くことで気づきを養う。</p> <p>○SWPBSに取り組み、「望ましい行動」を褒めることで自尊感情を高めさせ、自己肯定感を養う。</p>	2.5	2.3	3	<p>○学校行事などでは、最高学年としての自覚が出てきた。</p> <p>○予鈴から清掃を開始する生徒が増えた。</p> <p>○ボランティアの案内が少ない中、継続的に活動をした生徒もいた。</p> <p>○多くの経験から自尊感情を高めらると思う。一部の扱いやすい生徒のみピックアップするのではなく、文化祭のステージ発表は全員に機会を与えることができた。</p> <p>○学年集会での聞く姿勢は良好であった。</p> <p>○美化勤労者表彰（後期）52名</p> <ul style="list-style-type: none"> ●清掃をしない生徒が放置されている。 ●イベントを校内で完結しているので、校外活動の機会が少ない。 ●清掃に取り組まない生徒は相変わらずいた。 ●遅刻欠席が増加した生徒がいた。言葉かけをしたり、保護者に電話したりしたが、改善しなかった。
	3	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■二者面談、三者面談の充実度 ■各種進路ガイダンスへの参加数 ■希望進路決定率100% 	<p>○総合的な学習の時間において進路研究に励ませ、上級学校・有力企業への受験をチャレンジさせるための進路体制を構築する。</p> <p>○ポートフォリオによるPDCAサイクルを確立させ、生徒の進路実現に向けての活用を図る。</p>	3	2.7	3	<p>○二者、三者面談は必要に応じて実施できた。</p> <p>○進路実現100%達成できた。しかし県外就職においてはコロナを懸念し、辞退もあり得る。</p> <p>○ほとんどの生徒が希望通り進路決定することができた。</p> <p>○3年生の話を聞く会では29名の生徒が発表した。発表原稿をぬかりなく準備し、自らの経験を赤裸々に語る姿がとてもよかったです。発表を終えた表情も成長の跡を感じられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●総学の内容が学年主任まかせであった。また進路指導の検討の場が推薦委員会であったので、必要以上に時間がかかることがあった。推薦委員会の回数が多い。 ●国公立への進学について、結果が出せなかった。3年間の活動実績をまとめ、自分の言葉で表現するという力を育てられなかった。 ●対外模試のフィードバックが必要。どれくらい伸びたのかという分析。研修会の必要性。 ●キャリア教育の見直しが必要。3年後、どのような生徒に育てるのかその生徒像が描けていない。 ●校外との連携が不足している。市役所の出前授業などを通して地元のことを学ばせ、自分のやりたいことを見つけさせたい。